



The Y's Men's Club of Sendai

仙台ワイズメンズクラブ 2017 年 4 月報

- 国際会長主題 「私たちの未来は、今日から始まる」
- アジア地域会長主題 「ワイズ運動を尊重しよう」
- 東日本区理事主題 「明日に向かって、今日動こう」
- 北東部長主題 「明日のために、いま土台を築こう」
- クラブ会長主題 「笑顔で今活動を」～出愛・ふれ愛・学び愛～

会 長 吉田一恵
 副 会 長 佐々木絹子
 書 記 横倉 純
 会 計 田中京子
 メネット会長 田村成子
 担当主事 鈴木陽子

仙台クラブ事務所 : 〒980-0822 仙台市青葉区立町 9 番 7 号 仙台YMCA内
 仙台クラブ Facebook: <https://www.facebook.com/sendaiys/>

<今月の聖句>

「だから、言うておく。自分の命ことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥をよく見なさい。種も撒かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。」

マタイによる福音書 第6章25節～26節

4月の例会

日 時 : 4月18日(火)

18:30~20:30

会 場 : 田村治之さんご自宅

仙台市青葉区木町通

内 容 : 花見例会

司 会 : 田中京子

食前感謝 : 工藤悦子

会費 : 2,000円(メン、メネット共)

巻頭言「リビング・ウィル」

田中 京子



今年1月父(享年96歳)を亡くして思うことはリビング・ウィルだ。次は自分のことを考えておかなければと思う。

リビング・ウィルとは、生前の意志、例えば尊厳死に対して「尊厳死の権利を主張して延命治療の打ち切りを希望する」など、意思表示、記録を残すこと。でも、日本ではまだ有効ではないのです。救急搬送された場合、助かりたいために運ばれるわけだから、そこでは本人の意思に関係なく意思は助ける為に力を尽くす、意識のないまま人工呼吸器をという人もいます。生かされたその後が問題なのだという。人工呼吸器は一度つけばはずせない。筋肉が萎縮(ALS)する病気の方は、意識はしっかりある為、本人自らその判断をしなければならぬ。しかし、途中ではすすことはできない。実際つける人は30%、つけない人は70%とのこと。法律を作るとかえって尊厳死は難しくなるとも言われている。

患者が納得する死に方が一番理想。私も今は、延命はしなくて良いと考えているが、その時が来て、自分はどうか判断するのか、また、できるのか。そして最近耳にするのが健康寿命である。男性の平均寿命が80歳、女性が86歳。しかし、健康寿命は男性が71歳、

女性が74歳。この数字はあまりにも意外だったが、これは要介護状態になってしまう平均的な年齢ではなく、「あなたは現在健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか?」「あなたの現在の健康状態

3月例会報告

在籍者	18名
出席者	9名
メイキャップ	1名
ゲスト・ビジター	0名
メネット・コメント	1名
出席率	55.6%
ニコニコ	10,000円

いかがですか？」という質問を行って「日常生活に制限のない期間の平均」「自分が健康であると自覚している期間の平均」から導いた数値とのこと。そうであれば70歳も過ぎると、何か不自由なことも出てくると思われ納得だ。

考えると私の父は亡くなる4ヶ月前までは薬ひとつ飲むことなく行動範囲は狭くなり家の回りだけになってしまっていたけれど、毎日1合弱の晩酌（爛酒）を楽しみ、「魚は骨が面倒だから肉が良い」といい1日に6～7本のタバコも吸っていた。

突然、右手、右足が動かなくなり、脳梗塞と診断され1か月の入院で、手は動くようになり、自分で食事までできるようになったが、退院しても90歳過ぎということもあり、食欲などすべて元通りというわけにはいかず… 誤嚥性肺炎を起こしたりしたが、肺はきれいになり3週間で退院したものの、段々力がなくなり病院に運ばれ無理な苦しい治療などもなく静かに自然に力尽きた感じだった。自分の寿命と健康寿命が、ほぼ同じだった気さえする。

私も何歳であれ、父のような自然死でありたいが、自分では選べない。誰もが思っていることだろうが、せめて体に気をつけ自分なりの健康寿命を意識して行きたい。そして自分のリビング・ウィルは元気なうちにしっかり子どもたちに伝えておくことが大切だと思っている。

3月例会報告

日時：2017年3月21日（火）19：00～21：00

会場：仙台YMCA会館 3階サービス実習室

出席者：今澤・小幡・工藤・鈴木・佐々木・高松・田中・田村メネ・横倉・吉田

内容：仙台YMCA会館の改修工事の関係で会場はサービス実習室。司会は工藤メン、今月の聖句、ワイズソング、ワイズの信条と続き、会長挨拶では「今月プリテンの巻頭言のとおり、毎年仙台クラブがBF使用済み切手収集部門で1位の表彰を受けているのは、工藤メンの気配りとお働きが大であること、改めて認識し、厚く感謝申し上げます。今日はEMC、会員増強につきまして皆さんと考えたいと思いますので、よろしく願いいたします。」と述べられた。小幡メンの食前感謝により、味のふるさとのお弁当をいただく。

メインは「EMC、会員増強を考える」のディスカッション。出席者それぞれの思いを語られたが、友知人をワイズへ誘うにあたり、何がしかのハードルが動き躊躇しているのも事実のようです。そういう意味では入会されてくる方は大勢の中から『選ばれた』人でもありますね、とも語られた。また、高齢化や、会員減少の課題を多くのクラブが抱えている中で、会費が月1万円以上もして、40数名の会員が在籍し、しかも出席率が100%という熱海クラブがあることも現実



である、とも語られた。何がそれを可能にしているのか分析され、取り入れられる要素があれば、他クラブにも水平展開されるようにできないだろうか、などの意見も出された。種々討論されたが、それぞれのクラブの特色を生かし、会員一同が心を一つにし、生き活きとした活動をするのが大事である、とのまとめになり、まずは自分のクラブの足腰をしっかりとし、そして、新しい仲間を招きましょう、ということになった。

連絡報告では、2月に天に召された、元国際会長「竹内敏

郎さん」のお別れの会が5月27日に持たれること、また、仙台YMCA立町会館が3月29日にリニューアルオープンすること、などが周知された。

誕生祝い、ニコニコと続き、佐々木副会長から「ワイズに未来はあります！」との力強い閉会挨拶があり、吉田会長の閉会点鐘で閉じられた。ニコニコは10,000円。

4月の強調月間「LT」

「LT」(Leadership Training)は会員のリーダーシップ開発、向上を目的に行う研修。すべての会員はその役に就く前に十分な研修を受け、任務の遂行に備えなければならない。日常のワイズ活動そのものが広い意味では常にリーダーシップのトレーニングである。例えば、返事を求めて来た通信に、できるだけ早く答える。これは基本的なLTである。

津波の石碑建立記念・桜の植樹式に参加して

佐々木 絹子

3月29日(水)石巻市雄勝町名振地区の津波の石碑建立記念桜の植樹式があり参加しました。参加者は雄勝町名振地区の高橋会長他役員の皆さん、ワイズ関係は甲府ワイズの丹後佳代会長、内田和俊さん、ピーターマウントフォードさん、大野勉ワイズ西日本区次期理事、石巻広域クラブの平井幸次郎さん、日野峻さん、西村富子さん、清水弘一さん、東京西クラブの神谷幸男さん、神谷雅子さん、もりおかクラブの井上修三さん、仙台青葉城クラブの加藤重雄さん、加藤真子さん、仙台クラブは横倉純さん、吉田一恵さん、そして私佐々木絹子の計16名でした。

名振地区の高台で、静かな、とても景色の良い所でしたが、眼下は津波の後の復旧工事中や3.11時のままの状況でした。あの津波がなかったらと思う気持ちでいっぱいでした。高台の一角に「山高神代桜」と言う日本で一番古いと言われる桜を1本植樹しました。

国指定天然記念物「山高神代桜」と言う品種の貴重な1本です。

甲府ワイズの丹後佳代会長の寄贈にて、石巻広域ワイズを中心に三ワイズと共に1本という貴重な樹



なので、私も桜に声をかけ“かれない様にね” “すてきな花を咲かせてね”という思いを込めてスコップで土入れさせてもらいました。

高橋地区会長から最後に「今まで悲しい、つらい事があったけれど、桜の花の咲くのを楽しみに、明るい気持ちで、これからを過ごします。」とのお挨拶を頂き、私もお花見に参加出来る日を楽しみに帰途に着きました。追伸、大川小学校前でみんなで手を合わせる事ができ、運転を頑張っておられた横倉さんに感謝です。

山高神代桜は日本三大桜の一つに数えられ、推定樹齢約2000年のエドヒガン桜である。その種が全国から選ばれた13品種の種と共に2008年宇宙飛行士・若田光一さんと地球を4,100周して帰還して話題を集め、現在、山梨県北杜市の三枝基治さんによって大切に育てられている。今回の神代桜は500~1,000粒から発芽するのが一つ程度と言われる中から三枝さんによって育てられた貴重な一本である。通称「宇宙桜」とも呼ばれている。

YMCA西中田保育園卒園式に参列して

吉田 一恵

3月11日、穏やかな春日よりの卒園式、仙台クラブからは工藤メン、横倉メン、仙台広瀬川クラブから伊勢メンの4名が参列しました。

式次第を手に17名の卒園児の名簿を拝見し、女子に子の字の付いた園児は0人、8割の名前にふりがなを付けるのは難しいな～、の思い、時代の流れを改めて感じました。

吉永肇子先生の司会で式は進行、ひかり組の卒園児は個性あふれた真新しい洋服に身を包まれ、緊張しながら、入場する姿を見ていましたら、自分の子どもの卒園式の時と、この春に二人の孫も卒園するので、その姿とが重なり目頭が熱くなりました。

卒園児による讚美歌「球根の中には」の元気な歌声がホールに響き渡り、感動です。聖書の言葉「隣人を自分のように愛しなさい」の朗読、高松成土園長から卒園時が入園した時から、野外活動の思い出等、今日までの園児と共に過ごした日々の活動のお話とお祈りがありました。また、ひかり組担任の小泉加奈子先生の園児と過ごした日々のお話では、ご父母の方々も入園からの沢山の思い出がめぐっているのでしょうか、皆さん涙ぐんでおられました。

卒園証書を園長から授与された後に、それぞれの園児にご父母からのメッセージがあり、感激の時を共にしている姿を見ていて、また目頭に手を添えている自分がいました。そして、自分の子どもの時を思い出し、新しい時代の流れを感じました。

卒園児によるお別れの歌「ドキドキドン！一年生」、「ありがとう」の元気な歌声を聴き、明日への活力をいただいた時間でした。園児にありがとうございます。



東日本大震災被災者追悼礼拝

小幡 忠弘

2017年3月11日(土) 19時～20時で4Fホールにて、「東日本大震災被災者追悼礼拝」を執り行いました。昨年度までは、「あがれ希望の凧」と題して広瀬川の河川敷で復興祈願と亡くなられた方の追悼を願い、凧上げをしておりました。



プログラムは二部構成で、第一部では日本YMCA同盟で作成された「東日本大震災YMCAの取り組み」のムービーが上映されました。震災当初の混乱の中、たくさんの支援が仙台YMCAに寄せられたこと、約2週間のほどの間仙台YMCAが避難所の機能を持ち地域の方々と過ごしたこと、その後の仙台YMCAが行ってきた復興支援の様子が流されました。

第二部に東日本大震災被災者礼拝に移り、日本基督教団仙台北三番丁教会の川上直哉牧師から「被災後の日常に寄せる箴言」と題してメッセージを頂きました。メッセージの中で、いまだに被災者の方々が笑顔で元気な姿を見せるのは、「空元気なんです。」という言葉が未だに震災の影響が消えないことを改めて感じました。

また同席された日本YMCA同盟の山根一毅主任主事から、震災からこれまでの支援、熊本地震での支援について報告をいただきました。



最後に、参加していただいた方から東日本大震災の思いをお話ししていただきました。なお、礼拝でみなさまから頂戴した献金は、東北ヘルプへお渡しさせていただきました。

東日本大震災に見舞われ7年目となりました。復興の兆しが見えている部分もあれば、まだまだ問題が山積みになっているところもあります。YMCAはこれからも被災地寄り添い共に歩んできたいと思えます。

東日本区阪和部東北支援ツアーに同行して

吉田 一恵

3月10日は昨日までちょっと肌寒い日でしたが阪和部東北支援ツアーを歓迎したかのような穏やかな一日でした。

生駒範阪和部長（和歌山紀の川クラブ）ほか、大阪サウスクラブから2名、和歌山紀の川クラブは部長他1名、大阪川内クラブから3名、大阪堺クラブから4名の総勢11名（メネット4名）の方々でした。

村井伸夫総主事と石巻広域クラブの清水弘一メンと3人でご一行を仙台空港でお迎えしました。

車中は村井総主事と清水メンがガイドを務められ、一路福島県へ、福島県の困難区域へ向うにつれ放射線量計の数字が高くなり、地面近くの放射線量は高速道路標示の10倍位と聞き、車内では驚きの声があがりました。車窓からの浪江町、富岡町等を改めて目にし、数箇所の瓦屋根の破損があったが、津波での災害が無い地域で普通に車が庭先に止めてあり立派な家屋に人影が無い、公道から民家の入口にバリケードがされている光景に言葉が出ませんでした。あの日から6年経った現状を目に、災害の甚大さを改めて感じました。

南相馬市内で美味しい食事を頂き、名刺交換を済ませ、一路山元町へ被災した山元町の中浜小学校の前の花壇には何事も無かった様にお花が色鮮やかに咲いていました。村井伸夫総主事から、この近くの学校に避難したすべての人が全員助かった。「この校舎を造ってくれた方に感謝します。」と言った生徒のお話。「災害に遭遇した時はまず自分の身を守ること」そうする事によって多くの人を救うことが出来る。何度か聞いた言葉ですが改めて頭の中に刻み込まれました。

それから、仙台YMCAが主となり、ワイズも販売等の支援を続けている山元町のいちご農園、「岩佐農園」を訪問しました。まだまだ道半ばだと思いますが、昔ながらの作付けで忙しい中、奥様のイチゴに注いでいる愛情あふれたお話をお聞きし、時代の流れに沿いながら先人の良さを引き継ぐことの大切さを学びました。

その後、かつて漁港でにぎわった閑上地区を訪問しました。私はこの日夜、翌日に予定があり、阪和部のみなさんに最後まで同行出来なかったことが残念でした。阪和部のみなさんに感謝申し上げます。



他クラブブリテン記事紹介 那須クラブ3月号・例会報告「認知症について」抜粋

「那須赤十字病院認知症 認定看護師 白井愛海さんのスピーチより」

今日からできる認知症ケアとしてのまとめ

①相手の味方になる（病識を持たせる、反省をさせるという非効果的な関わりはしない）。②相手を怒らない（わかってほしいと求めず、人々として本音で付き合えるという捉え方）。③言葉をたくさん使わない、たたみかけない、分かりやすさが大切（情報処理や全体把握が苦手なことを理解し、言葉を選ぶ）。④言葉だけでなく、表情などやしぐさなども工夫して伝える。（情報を多く、但し多すぎず、手掛かりやヒントを提供する）。⑤穏やかに話しかける。（騒々しい環境を整える）。⑥その人らしさを尊重してかかわる。（認知症だからわからない、認知症は皆同じではなく、誇りをもって人生を懸命に生き、今に至った人としてかかわる。その人の生きてきた人生に関心を持つ）。⑦笑顔で接し、笑顔を引き出す。（認知症の人とのかかわりを自分から楽しむ。駄目なときでも深追いしない）。
＜認知症の方だけでなく、誰とでもこのように接することが出来ると良いですね。JY＞

わたしの好きな言葉

「Die mit tränen säen, werden mit freuden ernten.」

（ディ ミット トウレーネン ゼーエン、ヴェルデン ミット フロイデン エルンテン）

（涙をもって種まくものは、喜びをもって刈り入れる）

工藤 正剛

高校の時、私たちの時代は外国語として英語、ドイツ語、フランス語の選択制でした。私はドイツ語を選択しました。その時に会った言葉です。マルティン・ルター訳ドイツ語聖書の詩篇 126 編 5 節です。現在の日本語の聖書はヘブル語から翻訳していますから、少々異なりますが、「涙と共に種を蒔く人は、喜びの歌と共に刈り入れる」となっています。日本語でも、私の好きな聖句の一つではあります。しかし、このドイツ語の響きがなんとも心地よいのです。漢語で書くのも好きです。ちなみに漢語では次のように書きます。「以涙播種 偕喜獲」これも、見た目では好きな言葉です。



3月第2例会報告

日時：2017年4月4日（火） 19:00～20:40

会場：仙台YMCA 302号室

出席者：今澤・佐々木・鈴木・田中・田村メネ・中川・横倉・吉田

- ① 4月例会はメネットナイトと位置づけ、花見例会として開催する。会場は田村メン・メネットのご厚意により、田村宅の客間に集うこととする。会費は2,000円とし、準備はそれぞれ分担する。
- ② 4/9（土）～4/10（月）に名古屋グランパスクラブ他17名、被災地訪問あり、4/10に吉田会長が松島航空基地にて合流する。
- ③ 第3回北東部評議会が4/22（土）宇都宮にて開催予定。詳細確認の上、出席者を確定する。
- ④ 4月東日本区ニュース（理事通信）の内容を確認する。東日本区大会への出席は、今澤、横倉、吉田の3名がエントリーの予定。
- ⑤ 4月ブリテンの原稿提出状況を確認する。
- ⑥ 5月例会ではフリーアナウンサーの「渡辺祥子さん」をゲストスピーカーに招くことを確認する。
- ⑦ 茨城クラブ、稲本会長のお孫さん、稲本啓くんの心臓移植手術を支援する「ひろくんを救う会」にニコニコ会計より2万円を支援金として拠出することが承認された。
- ⑧ Y特別プログラム、次年度はバザー（今年度）と国際地域協力募金の実行委員長を仙台クラブが担当することを確認する。